

■松井元泰(古梅園6代) まついげんたい
墨工。製墨法一変させ、製墨史を著し、販売法も工夫、以後{古梅園}が“奈良墨”市場を独占。
・・・・・・・・1689＝ 大和国奈良で、_代々“奈良墨”を売る製墨屋の一つ{古梅園}の5代目松井元規の子に生まれる。

生類憐令頂点1695＝ 6歳：

吉保大老格・1698＝ 9歳：

富士宝永噴火1707＝18歳：

徳川綱吉没・1709＝20歳：

_黒色鑑定に優れた才能を発揮し、

和漢三才図絵1713＝24歳：*父の後を継いで、6代目となり、官名“和泉掾”を受けると、

西洋紀聞・・・1715＝26歳：*靈元法皇秘蔵の和漢古墨を献覧し、官庫秘蔵の古墨の鑑定を命じられる。

徳川吉宗將軍1716＝27歳：

既に、江戸・京都にあった出店に加え、老舗の御用墨師の店と並ぶべく、

・・・・・・・・1722＝33歳：大坂に出店を設ける。

・・・・・・・・1725＝36歳：

_製墨の研究と改良に努め、

享保大飢饉・1732＝43歳：

・・・・・・・・1734＝45歳：_重さ20斤(12kg)の大墨をつくって京都御所に献上。

_さらに改良すべく、

🚢船出没始 1739＝50歳：_唐墨研究のため、長崎に赴き、清の文人・商人らと交流するとともに、自家製の松煙・油煙を託し、
・・・・・・・・1740＝51歳：*徽州の官工程丹木が製造した墨十挺を入手すると、“新渡来墨”と銘打ち、’百世宝トスベシ’の宣伝文句で
売り上げるなどし、{古梅園}を中興し、以後、“奈良墨”業界をリードして行くものにして、

・・・・・・・・1743＝54歳：_没した。
「古梅園墨譜」「古梅園墨談」を著す。

「人づくり風土記(奈良)」,